**◎ロダン（重要な箇所を詳しく抜粋）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　４月３日**

・彫刻「瞑想」に関するロダンの言葉。　「アレコレが不活発に至る」

　グセルが述べる彫刻「考える人」

・解決への道：　内なる炎をadore（礼拝する）。

その心が大事。adoreのの具体的行為（礼拝行）をフィディアスから学べる。

ヴィーナス＆バッカスの形の「真似」でなく内なる炎を愛すること。

**●ロダンの語る「瞑想」（872）**「第８章：芸術における思想」

（古川訳）ある日曜日の朝、ロダンと一緒に彼のアトリエの中にいたとき、私は彼のもっとも迫力に富む作品の一つでもあるものの複製［moulage＝塑像］の前に立ちどまった。それは**肉体が苦悩によじれ曲がった美しい若い女**である。彼女は**秘密の苦痛にさいなまれているのであろう**。**その頭は深くうなだれている**。その唇と眼蓋は閉ざされて、人は眠っているのだと思うかも知れない。しかし**顔に現われた苦悶が、彼女の心中の激しい争をあばいてみせる**。

これを見る人をいたく驚かすものは、それが**腕も脚をも持っておらぬ**ということである。**彫刻家が自分自身への不満の余りにそれを打ち砕いたものとみえる**。そして人はこれほどの力強い像が不完全であるのを惜しまずにいられないのである。**人は、それが受けた無残な切断を悲しむ**。

私が抑えがたいこの感情を主人の前に表わしたとき、

（ロダン）**何という非難を私にされるのです？　（彼は若干驚いて私にいった）それは計画なんですよ。私の像をこの状態にしておいたというのが**。

【Elle représente la **Méditation**. Voilà pourquoi elle n’a ni bras pour agir, ni jambes pour marcher. N’avez-vous point noté, en effet, que la **réflexion**, quand elle est poussée très loin, **suggère des arguments si plausibles pour les déterminations** **les plus opposées qu’elle conseille** **l’inertie** ?】（872）inertie:慣性、惰性、不活発。bras：腕。marcher:歩く。jambe:足。

　それは**『瞑想』**(**Méditation**)を表わしているのです。**動かそうにも腕がなく、歩もうにも脚を持っておらぬのはその為なのです**。**思索が余り先まで押し進められると、遂にそれは正反対な決意に至極く尤もらしい理屈を思いつかせて、最後には惰性（**inertie）**を誘致する**、ということを貴方は全くお忘れになったのでしょうか？

【Cette femme, je le comprenais maintenant, était **l’emblème de l’intelligence** humaine impérieusement sollicitée par des problèmes qu’elle ne peut résoudre, hantée par l’idéal qu’elle ne peut réaliser, obsédée par l’infini quelle ne peut étreindre. La **contraction** de ce torse marquait la torture de la pensée et sa glorieuse, mais vaine obstination à creuser des questions auxquelles elle est incapable de répondre.】

（グセル）この数語は、私を再び最初の感銘へ立ち帰らせるに充分であった。かくて私は心おきなく、眼前に置かれた彫像の気高い象徴主義を讃えた。

この女性は、私は今や理解したのであるが、それは彼女の解きえぬ数々の問題に否応なしに駆り立てれれ、実現することのできぬ理想にとらえられ、抱き締めるすべもない無限に悩まされている**人智の寓意**（emblème）なのであった。**この胴（トルス）の攣縮(contraction)は思想の懊悩(torture)と、それが解答することのできぬ問題を掘り下げようとするその輝かしい、だが空しい根気**とを現わしていた。そして四肢の切断は、**実際生活において瞑想的な魂が感ずる打ち勝ち難い嫌悪を示す**ものであった。

【Et la mutilation des membres indiquait l’insurmontable dégoût qu’éprouvent les âmes contemplatives pour la vie pratique.】（879）

（内藤訳）（グセル）ある日曜日の朝、ロダンといっしょにそのアトリエにいた私は、彼のもっとも目ぼしい作の一つの模作の前に立ちどまった。それは美しい若い女で、**胴体をいたいたしくねじらせている**。**何か得体のわからぬ苦しみに悩まされているように見える**。**頭は深く垂れている**。唇と瞼が閉じていて、眠っていると人に思われぬとも限らない。しかし、**悩ましそうな顔をみると、劇的に心を張りつめていることがわかる**。見るにつれて、いよいよ驚くことは、**女が腕も足も持っていない**ことである。彫刻した人は、自分で自分が不満なあまりに、どうやら**手足を打ちこわした**ようにみえる。それでも人は、こんなに力づよい彫像が、完成されていないことを残り惜しく思わぬわけには行かぬ。**残酷にも手足を切りとられていることが、いたいたしいのである**。アトリエの主人（＝ロダン）の前で、私がおもわず、こんなふうに心の中をぶちまけると、主人はどこか驚いたような様子をしていった。

（ロダン）何がいけないんです？　**この像は、わざとこうした**んで、これ以上どうするつもりもない。いや、まったくです。

**「瞑想」**というところですよ。だから、**何かをする腕も持っていないし、歩くための足も持っていない**のです。**思索というものは、それが極端になると、まったく反対の決定をするために、いかにも尤もらしい議論の拠りどころを思いつかせて、ついには人を無気力（**inertie）**にしてしまう**。どうです、君はこんなことに気づいたことはありませんかね。

（グセル）こう言われただけで、私は最初の印象がまちがっていたことを知った。そしてそうなるとすぐ、目の前にある彫像のけだかい象徴的な表現を、駈引（かけひき）なしに立派だと思った。もう私には、こんなことがわかっていた。

問題の女は、実現することのできない理想につきまとわれ、つきとめることのできない「無限」になやまされて、解決できないさまざまな難問題に一も二もなく唆（そその）かされている**人間知性の象徴だった**。引き釣っている胴体には、責めさいなまれている心の中と、解答をあたえることはできないながらも、いろいろな問題を掘り下げて行く執拗（しつよう）さ、**花々しくはあっても結局は無益な執拗さ**がはっきり窺（うかが）われた。

　そしてまた、手足が断ち切られているところには、**瞑想を事とする人が、実際生活にたいして感ずる打ち勝ちがたい嫌悪の情が示されていた**。

My figure represents **Meditation**. **That’s why it has neither arms to act nor legs to walk**. Haven’t you noticed that **reflection, when persisted in, suggests so many plausible arguments for opposite decisions that it ends in inertia?**”

These words corrected my first impression and I could unreservedly admire the fine symbolism of the figure. I now understood that this woman was the emblem of human intelligence assailed by problems that it cannot solve, haunted by an ideal that it cannot realize, obsessed by the infinite which it can never grasp. The straining of this body marked the travail of thought and its glorious, but vain determination to penetrate those questions which it cannot answer; and the mutilation of its members indicated the insurmountable disgust which contemplative souls feel for actual life.

●文学と彫刻 ［８章］

（古川訳）私は無論、文学的手段と美術的手段とを分つ相違について熟考することの有益であるのを否定はしません。先ず第一に文学は、形象に頼ることなくして様々な理念を表明しうるという、かの特徴を具えています。例えばそれは一人の**物思いに沈む女を、身動きもならぬ状態に留めて刻むの必要もなく、こういうことが出来るのです**。『**極端に深い考えはまことにしばしば無為(inaction)に至る**』と。(910)

（内藤訳）　もちろん私は、文学の方法と芸術の方法とのちがいについて考える(méditer)のが無駄だなどと言うつもりはない。

　まず第一に、文学には影像にたよらずに、思想を表白することができるという特殊性がある。たとえば文学は、考え込んでいるために身動きできなくなった女の彫像がなくても、「人間は深く考えこむと、**しまいには、なんにもしなく(inaction)なりがちなものだ**」と言うことができるのです。

For example, it can say: **Profound reflection often ends in inaction**, without the necessity of figuring a thoughtful woman held in a block of stone.

●力と美とに輝く胴体　［８章］

（古川訳）実をいえば、一切が理念（イデー）であり、一切が象徴なのです。

かくてこそ人間の形態と挙動とは、必然的にその魂の感情を洩れ明かすのです。肉体は常に、それが包んでいる精神を表わします。そしておよそ眺めうる人にとっては、裸体は最も豊かな意味を提供するのです。輪廓の荘厳なリズムの中に、偉大な彫刻家フィディアスは、神の叡智によって全自然の上に拡がっている崇高な調和を認めたのでした。**静かな、よく均衡のとれた力と美とに輝く胴体（トルス）(radieux de force et de grâce)**はよく彼をして、世界を支配する全能の慧智に思いを致させるのです。

●グセルによるロダン彫刻評　［９章］

（古川訳）人間に於いて特に貴方の心を奪ったもの、**それは肉体の中に縛りこめられている魂の、奇怪な不自由である**、と私には思われます。貴方のいずれの彫刻に於いても、それは等しく**肉体の重量と怯懦（きょうだ）とにそむいて、夢想へと向う精神の飛躍**なのです。

**『考える人』に於いては、空しくも絶対を抱擁せんと願う瞑想(meditation)が、その恐ろしい努力の下に力士の肉体を縮ませ(contracte)、それを撓（たわ）め(ploie)、それを丸めて(met en boule)粉砕して(l’écrase)おります**。『接吻』においてさえも、双の身体は、魂の希う解き放ち得ぬ合体には達すべくもないことを既に自ら感じているもののように、憂わしげに**慄えおののいて**おります。…

また胸像作品においては、貴方は恐らくは更に一層、物質の束縛に対するあの精神のもどかしさを示されました。ほとんどすべてのものがかの詩人の美わしい詩句を思い出させます。

**飛び立つ鳥の、梢を撓（たわ）ませるごとく、 その魂　肉体を撃ち砕きたりき！**…

（ロダン）貴方は私の様々な作品を観察して、限界なき真実と自由との、或は架空なる王国へとむかう、**魂の飛躍**に正しくも触れられました。事実それこそは、まさしく私を感動させた神秘なのです。

（内藤訳）「考える人」では、いくら絶対を抱擁しようと思っても、**どうにもならない「瞑想」が**、おそろしい努力をしながら、屈強な**肉体を縮ませては押しまげ、球のようにまるめては押しつぶしています**。

It seems to me that what has especially interested you in humanity is that **strange uneasiness of the soul bound to the body**. “**In all your statues there is the same impulse of the spirit towards the ideal, in spite of the weight and the cowardice of the flesh**. …

**In your Penseur, meditation, in its terrible effort to embrace the absolute, contracts the athletic body, bends it, crushes it**. …

And in your busts, even more perhaps, you have shown this impatience of the spirit against the chains of matter. Almost all recall the lines of the poet: As when, in taking flight, the bird bends the branch, **so his soul had bruised his body**.

**●「内なる焔」**（660）　「第６章：女の美しさ」から

（古川訳）人体、それはなかんづく魂の鏡です。そこ（魂）よりしてそれの最大の美は発するのです。… 我々が**人体において崇め称えるもの、それは、あの様に美わしい形**(forme si belle)**にもまして、そこに火と燃えるが如く歴々と見られる内なる焔(flamme intérieure)である**のです。

（内藤訳）人体というものは、とりわけ魂の鏡です。そして人体のこの上もなく大きな美しさは、そこから生まれるのです。… われわれは**人体のどこに心からの愛をもつかといえば、その形はどんなに美しくとも、それ以上のものです**。曇り一つなくそれを**照らしだしているように思われる心の炎**です。

（高村訳）**人体こそ、わけても魂の鏡**です。そしてまたそれ故にこそ最大の美が存するのです。…

**われわれが人体に讃美するところのものは、いかに形は美しくともそれより以上のものです。透き通してそれを照りかがやかせるかと見える内面の火**です。

**What we adore in the human body more even than its beautiful form is the inner flame which seems to shine from within and to illumine it.**”

（Caso訳）What we adore in the human body, even more than its beautiful shape, is the **interior flame** that makes it transparent.

**●「マリオネット」（727）**「第７章：昔の人たちと今の人たち」から

（古川訳）凡そ人間が、在りの侭の自分を知るということは極めて稀です。そしてたとえ知っているとしても、芸術家が真摯にそれを象るとすれば、それが彼には不愉快なのです。

　彼はもっとも中和的な、そしてもっとも平凡な容貌に表わされることを要求します。彼は**公式的なあるいは世間なみの操り人形**(**marionnette**)**であることを望みます。社会において彼が果たしている機能や占めている地位**(rang)**が、彼の中なる人間を完全に抹殺すれば気にいるのです**。司法官は法服であることを、将軍は黄金の飾紐のついた軍服であることを望むのです。彼等は自分らの魂を洞察されることなどはまず欲しがりません。

固より夥（おびただ）しい平凡な肖像画や胸像作家達の成功は以上によって説明がつきます。彼等は依頼客達の没個性的な容貌や、組紐飾りや、国王然たる見掛けを描き表わすにとどまっているのです。大抵の場合最も人気があるのはそうした芸術家達です。彼等はモデルの人達に富と威厳との仮面を与えてやるからです。胸像あるいは肖像画が誇大であればあるほど、それはますます醜悪な、そして**気どった木偶**(**poupée raide et prétentieuse**)に似て来ます。そして依頼者は一層満足をするのです。… 然るに今日の人間は、真実を恐れ虚偽を尊ぶようにされています。

**He wishes to be an official or worldly marionette. It pleases him to have the function he exercises, the rank he holds in society, completely efface the man that is in him.**

●**人形扱い**（原112）「第１章：芸術における写実主義」から

（インタビュアーのグセルが言うには、ロダン以外の彫刻家は）台座の上にモデルをのぼらせて、あれこれとポーズするように言いつけるのです。のみならず大抵いつも、自分の好みにまかせて、胸や脚を折らせたり伸ばさせたりするのです。**ぎくしゃくと動くマネキン(mannequin articulé)とまるきり同じ**ですが、彫刻家たちは、そうしたあとで仕事にかかるのです。

ところで、先生はそれとは反対に、モデルたちがこちらの気に入った姿勢をとるのを待って、それを再現しようとなさいます。したがって、モデルたちが先生に命令されているのではなくて、むしろ先生が、モデルたちに命令されていらっしゃるようです。…

（ロダン）**わたしは、モデルたちに命令されているんじゃない。「自然」に命令されているんです**。君のいうその彫刻家たちが、君が今いったような仕事をするのには、もちろんそれ相当な理由があるでしょう。**しかし、そんなふうに「自然」をけがし**(violentant)**、人間を人形扱い**(**comme des poupées)にしたら、細工だらけな、いのちのない作**(**œuvres artificielles et mortes)をする恐れがありますね**。

わたしは真実を追いもとめている。生命を待ち伏せている。だから、そういう彫刻家たちをまねることはつつしむんです。この目で見る人体の動きの生きいきしたところをつかむんだが、しかし、何もこのわたしが、それを押しつけるわけではない。

取りあつかう主題の性質上、モデルから或る一定の姿勢を求めなければならぬ時だっても、わたしはモデルにその指示はするが、モデルに手を触れてこんなポーズを取れというようなことは、深く注意して避けます。なぜというに、現実がしぜんに見せてくれる姿かたちだけを作にしたいからです。

どんな場合にも、私は「自然」に服従します。決して命令しようとは思いません。**わたしの唯一の野心(ambition)は、「自然」にたいして奴隷のように(servilement)忠実であることです**。

（Fedden訳）“I am not at their orders, but at those of Nature!

My confrères doubtless have their reasons for working as you have said. **But in thus doing violence to nature and treating human beings like puppets, they run the risk of producing lifeless and artificial work**. … “I obey Nature in everything, and I never pretend to command her. **My only ambition is to be servilely faithful to her**.”

（Caso訳）**But in so violating Nature and in treating human creatures like dolls, they risk producing artificial and lifeless works**. … My only ambition is servile fidelity to it.

●死で氷った人形のよう (276) 「第３章：肉づけ」から

【Tandis que la vpie anime et réchauffe les muscles palpitants des statues grecques, les poupées inconsistantes de l’art académique sont (comme **glacées par la mort**) (276)réchauffer:暖める。

（高村訳）ギリシアの彫像には生命そのものが、脈うつ筋肉を活かし、暖めているのに官学派芸術のだらしのない人形は**死んで氷のよう**(**comme glacées par la mort**)です。

（Fedden訳）While life animates and warms the palpitating（脈うつ） muscles of the Greek statues, the inconsistent dolls of academic art look **as if they were chilled by death**.”

（Caso訳）Whereas life animates and warms the palpitating muscles of Greek statues, the inconsistent dolls of academic art seem **frozen by death**.

●ロダンにとって「宗教」とは？　「第９章：芸術における神秘」

（高村訳）――それはその言葉に持たせる意味次第です。もし宗教的という事が某々の習慣に従ったり、某々の教条の前に平伏したりする事を意味するならば、明らかに私は宗教的でない。今の時代にまだそういう人間がありますか。誰が自己の批判的精神と道理とを棄てられますか。

だが、私の考えでは宗教というものは信経の誦読とはまるで別なものです。それはすべて説明された事のない、また疑いもなく世界において説明され得ないあらゆるものの情緒です。**宇宙的法則を維持し、また万物の種を保存する「知られぬ力」の礼拝(l’adoration de la Force ignore)**です。「自然」の中でわれわれの**感覚の下に落ちて来ないあらゆるもの**、われわれの肉眼でも心眼でも見る事の出来ないものの無辺世界の推測です。それはまた無限界、永遠界に向っての、きわまりなき智慧と愛とに向ってのわれわれの意識の**飛躍**(**l’élan)**です。多分夢幻に等しい頼み事でしょう。だがそれは、この世から、われわれの思想をまるで翼の生えたように飛躍させるのです。**この意味でなら、私は宗教的です**。

It is the **adoration**（崇拝、崇敬） **of the unknown force** which maintains the universal laws and which preserves the types of all beings;

●筋肉を生気づけている生命

（古川訳）よき彫刻家が人体の胴を刻むとき、彼が表わすのは単に筋肉のみではなくして、**それを生気づけている生命**(**c’est la vie qui les anime)**、……**生命以上のもの**、……それらを形づくり、それらに或は優美を、或は力を、或はほれぼれとする魅惑を、また或は抑えるべくもない憤激を伝える力なのです。

“When a good sculptor models a torso, he not only represents the muscles, but **the life which animates them**— **more than the life**, the force that fashioned them and communicated to them, it may be, grace or strength, or amorous charm, or indomitable will.

●礼拝（跪拝）の行為

（高村訳）彫刻家が自分の研究する**形に偉大な性格を認めた時**、一時的の線の中から各生物の永遠的な形象を抽き出し得た時、一切諸法の原本である不変のモデルを聖なるもの自体の中に見別けたような時、**この彫刻家はそれでもまだ礼拝**(**acte d’adoration)した事にならないか**。

（古川訳）彫刻家が、その研究する諸形態に偉大な性格を認めるとき、… **彼は今さらに跪拝の行為を行わぬでしょうか？**

“Does not the sculptor **perform his act of adoration** when he perceives the majestic character of the forms that he studies?— when, from the midst of fleeting lines, he knows how to extricate the eternal type of each being?— when he seems to discern in the very breast of the divinity the immutable models on which all living creatures are moulded?

●彫刻家自身が体験した「戦慄」

（高村訳）**形を普遍化する天賦、即ち生きた現実を空虚にする事なしに形の理法を表わす天賦を持っている芸術家は、みな同じ宗教的感情を生み出します。なぜと言えば、彼は不朽の真実の面前で彼自身体験した戦慄**(**frisson)をわれわれに伝えるからです**。

Every artist who has the gift of generalizing forms, that is to say, of accenting their logic without depriving them of their living reality, **provokes the same religious emotion**; for **he communicates to us the thrill he himself felt** before the immortal verities.”

●パルテノンのアフロディテ

（高村訳）この三人の女が坐っているに過ぎません。がその姿勢が実に滑らかで実に高貴で、まるで**眼に見えない絶大なある物に関与している**気がします。彼らの上にはまったく**大きな神秘(grand mystère)が統治しています**。即ち、**無形な、永遠な「理法」(Raison immatérielle, éternelle)**です。**これには全「自然」が服従します。そしてこの女神もまた彼ら自身その天上界の召使なのです**。

こうして**すべての大家は立ち入れない「不可知」の領域の園**まで前進しています。**ある者はそこで哀れに前額を傷けます。想像力のもっと元気な他の者は壁越しにこの秘密の果樹園に棲む微妙な鳥の歌を聞いていると信じています**。

They are only three women seated, but their pose is so serene, so august, that they seem to be taking part in something of enormous import that we do not see.

Over them reigns the **great mystery**, the **immaterial, eternal Reason** whom all nature obeys, and of whom **they are themselves the celestial servants**.

So, all the masters advance to the barrier which parts us from **the Unknowable**. Certain among them have cruelly wounded their brows against it; others, whose imagination is more cheerful, imagine that they hear through that wall the melodious songs of the birds which people the secret orchard.”

●宗教の第一の掟――腕、胴、腿

（高村訳）君はもう芸術は一種の宗教だという事を納得しましたか。（――グゼル、「確かに。」）――だがまた、**この宗教を修めようとする者にとっての第一の掟は、一つの腕一つの胴体もしくは腿が十分にこなせるという事にあるのだということを注意するのが肝腎です！**

●**abandon**とグレイス　「第１０章：フィディアスとミケランジェロ」

（高村訳）**閑雅と優美に満ちた姿勢**(**Posture pleine d’abandon et de grâce)**。…

**The pose is full of abandon and of grace**.

（古川訳）**力(force)はしばしば優美(grâce)に合一し、真の優美は力強いものです**。